3DCG MODELING

▲[illegible]にふさわしい強烈な[illegible]るといえよう

最強にして最後の敵。破壊神、アヌビス

■パフラム軍指揮官、ノウマンの搭乗する[illegible]プレーンレンベックカタパルトを利用し[illegible]でも可能[illegible]としているアヌビスは、名実共に[illegible]の力を誇す機体である。主人公・ディンゴは[illegible]に属しており、二人の間にはさまざまな[illegible]二人が駆るジェフティと、このアヌビ[illegible]に[illegible]す劣らず強い親近性がある。共に本星[illegible]テ[illegible]リアにおいて同時に開発されていた機体[illegible]したのはノウマンの父親にして、オービタ[illegible]の父とも呼ばれるリコア・ハーディマン博士。さ[illegible]体を構成するメタトロンは、ノウマンの離叛[illegible]を全滅させられたディンゴが、パフラム軍を離脱[illegible]ともなった輸送作戦[illegible]で彼自身が盗んだものであ[illegible]わが「生き写しの双子」(ロイドの弁)であることを[illegible]機が近づくと互いに共鳴反応をおこし、エネ[illegible]しい赤色光を発する。さまざまな過去と、多くの[illegible]を埋めたジェフティとアヌビスの結合的な交わり[illegible]ここに結実する。

■ゲーム開始から比較的早い段階で、プレイヤーはアヌビスと対峙することとなるが、その段階では圧倒的な能力差により足元にも及ばないことだろう。しかし、ジェフティとディンゴ、そしてプレイヤー自身の潜在能力を引き出すことにより、きっとこの最強の敵を葬り去るときが来るはずだ。

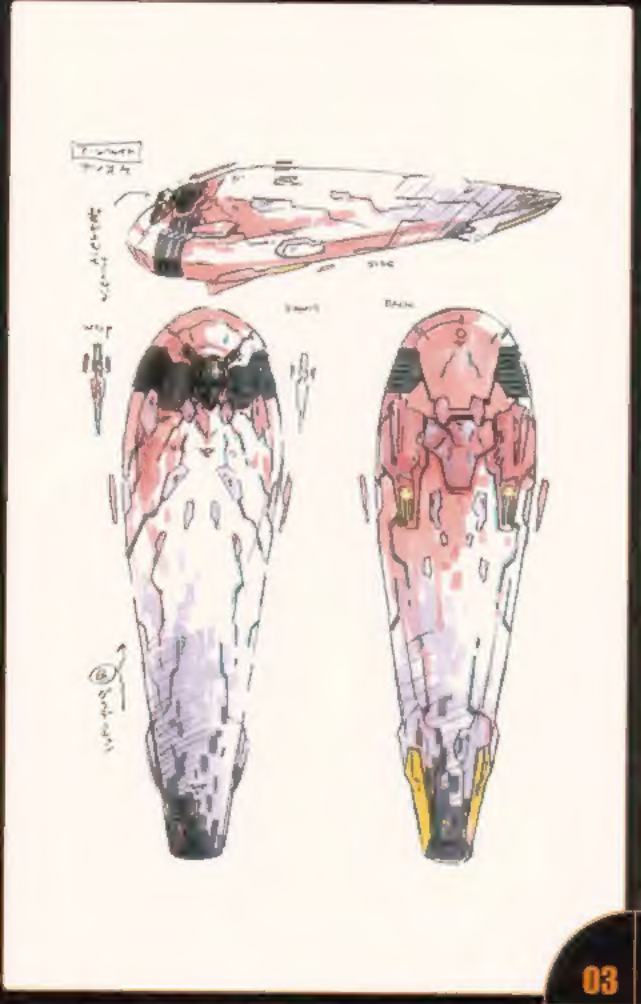
ANUBIS

オービタルフレーム・アヌビス

■アヌビスの設定資料からのイラスト。02の後ろから見た図では、その背中の6枚の羽、脚の逆関節や蜘蛛のように長くのびたケーブル、さらには手に持った鋭利の武器など、実にさまざまな特徴が確認できる。前出の3Dモデリングと比較しても、かなりの相違点が見受けられる01。03の図は、じつは「アーマーン/アヌビス」と呼ばれる変化形。開発当初から密接な関係を持つ、軍事要塞アーマーンの一部と融合し、新たなる力を得てさらに改造化したアヌビスのもうひとつの姿だ。所々のパーツが大落し、内部がむき出しになると同時に、パネルが羽のように両面に広がる。その名の通りエジプト神話のアヌビス神を連想させていたマスクも剥がれ落ちて、その下から恐ろしいもうひとつの顔が現われている。その様子は、あたかもフレームランナーであるノウマンの、感情をほとんど表に出さない冷酷無比な外貌と、アーマーン台座の下で、破壊に取り憑かれた狂気の内面を象徴しているかのようである。

03 01

02



03 01
04 02

■オービタルフレームのなかは珍しく人型の顔を持つアージェイト。前作の前川によるラフデザイン案のみが残った"相棒型のメカ"を監督の木田昭陽が使用したいと言い出したことが今回のスタートだった。しかしヒロインが乗るオービタルフレームということで、相棒が醸す出すおどろおどろしさを抑え、華やかな「花嫁」のイメージを押し出した。無敵ガード状態時に前髪の名残がある。表情もどこか和風で、絵巻などで見る日本女性を想起させる。頭部のパーツもまた鎧のようでもあり、背部のWISPは着物とも受け取れる。派手な、ではなく、落ち着いた大人の女性といった感じだ。鎧の「泣き黒子」も、そのイメージを一層強くさせている。WISPが形成するマント型のシルエットを強調するためにボディカラーは黒を基調としており、これがさらにアージェイトのしっとりとした雰囲気に一役買っている。ゲーム中でのマントは細かいパーツ分割が施されており、3DCG版の特徴のひとつといえよう。

「どうせ死んだ身だ。俺は自分でケリをつける」

■ディンゴは2重の意味で「いちどは死んだ男」である。ひとつには、ノウマンの銃撃で受けた致命傷によって、生命維持装置に接続することによって一命は取り留めたが、心肺機能を失った彼が本当に生きていると言えるのかは微妙だ。それ以前にも彼は、すでにいちど死んでいる。ノウマンの陰謀により部隊が全滅したとき、ディンゴはバフラム軍には戻らなかった。実力と人望を兼ね備えたディンゴが反旗を翻せば、仲間の仇を討つことも、火星が焦土と化すのを食い止めることも可能であったかもしれない。だが、彼はバフラム軍には戻らず、採氷労働者としてカリストに隠遁することを選んだ。記録上ディンゴは死亡扱いとなり、彼の精神もある意味このときに死んだのだ。だが、逃げたままいつまでも死んでいられるほど、ディンゴの精神は朽ちてはいない。ノウマンとの決着を付けたとき、彼は本当の「生」を取り戻すだろう。

■ディンゴの発するオーラからは、精悍さや力強さだけではなく、怒りと哀しみも感じることが出来る。人の命を弄ぶノウマンに、火星の人々のことを考えぬ地球人に、為すべきことを果たしていない自分自身に、そうしたどうしようもない人類というものに、怒り嘆いているように見える。今回の戦いや人との触れ合いにより、彼は新たな相貌を獲得するのか。

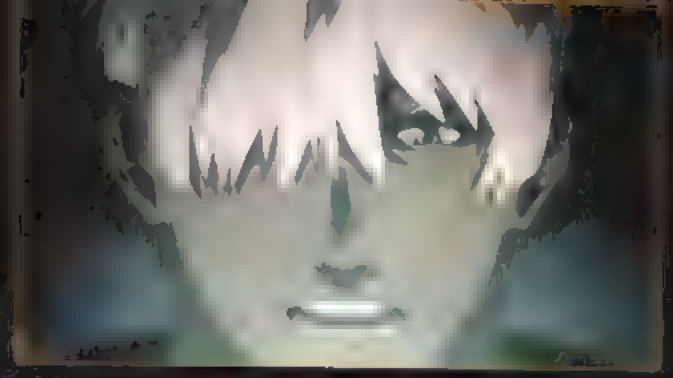
DESIGN at E3

▶E3（Electronic Entertainment Expo）において公開されたときのディンゴのデザイン。ディンゴにとって文字通りの「生命線」である生命維持装置との接続ケーブルを引き抜き、怒りの形相を見せている。この怒りは、こんな身体にされてしまったことへの怒りか、それともノウマンに対する怒りか？　このE3バージョンのデザインに関しては、故障と再村の間でも厳しいやりとりがあったようで、そんなところもデザインに影響を与えているのかもしれない

▼ラフデザイン。カリストで採氷作業をしているときの平服と、歯を剥き出しにした怒りの形相が描かれている。自転車乗りとなっているさまなど、「情熱」と表現するにふさわしい、内面的に熱い男で、叫ぶことが多いため、劇場は特に叫んでいるディンゴの絵が多い。この「叫び」や「怒り」がディンゴに「力強さ」という属性を与え、彼に生きぬく力を与えているのかもしれない。

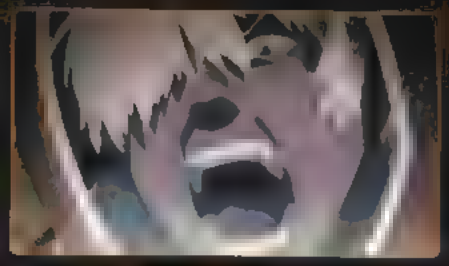
ROUGH DESIGN

ディンゴ通常時
宇宙空間でるとか特別な場合以外は
メット外した状態が基本型です。
デザインもこの状態を基本として
デザインしています。
重装用メットも外してい ます。
ROUGH DESIGN



▲「懐しい顔。メタトロンだ。にしちゃあ、ずいぶん位置が浅い」　メタトロン、き[illegible]人間の[illegible]に[illegible]をみたらした万[illegible]石、[illegible]。そこで見つけたものは……。「オービタルフレーム……!?」

▲「アンジー、思い出した。その年に優勝したのもヘスペリア・ゲイルズだ」。[illegible]仲間のアンジーらと他愛のない話に興じ年が明け、[illegible]ディンゴ[illegible]つもと同じ、平穏な1日になるかと思われたが……



▲「[illegible]らには渡してもらうわ」　パフラム軍の狙いは、オービタ[illegible]か？　[illegible]が交戦する

▲「了解。ポイント04へ向かう」　LEVを失いオービタルフレーム・ジェフティ[illegible]に乗り込んだディンゴ[illegible]ケンの操るアージェイトが襲いかかる。[illegible]あるその視線は、まるで極寒のカリストの空気のようにうつろだった……

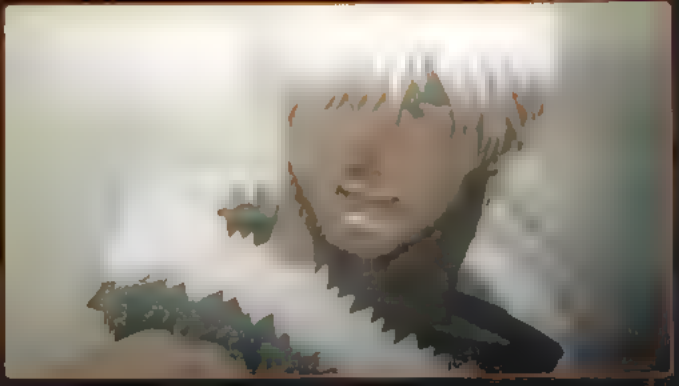
▲「はいだらー！」自らを鼓舞するかのように声を張り上げ、ジェフティへと向[illegible]互いに一歩も譲らぬまま、2人は激しくぶつかり合う

▲「そこを退せ！」　仲間を救うため、ひるむことなくアージェイトへ[illegible]ディンゴ[illegible]ての仲間たちのように……

▲「腕が鈍ったぞ、ディンゴ」　パフラム軍を率いた[illegible]

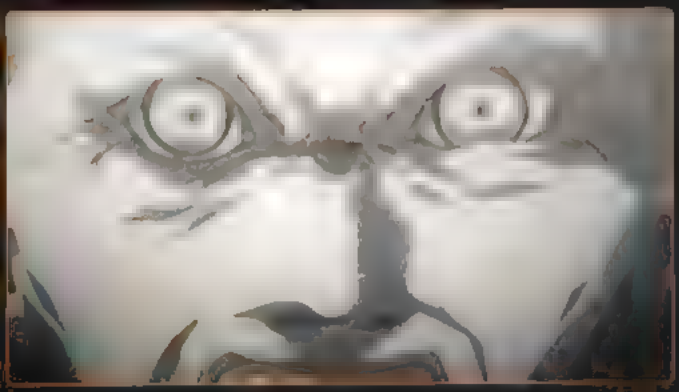
▲「なんでこの船に乗ってきたの……!?」　まるで[illegible]

▲「カリストの途中になにかあったら許さねえ」　ケ[illegible]

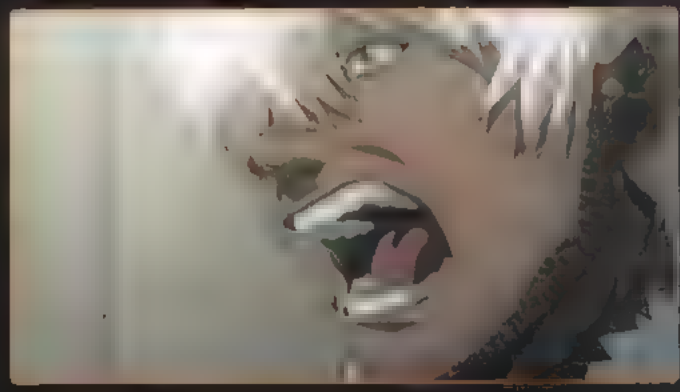


▲「あんたのお遊びのおかげで死にかけたんだ。冗談じゃねえ！」 [illegible]
大な理由があった

▲「黙れ、ディンゴ。これから面白くなる」 さも当たり前のように、[illegible]
重傷などカケラほどにもうかがえない。そして反発するディンゴ

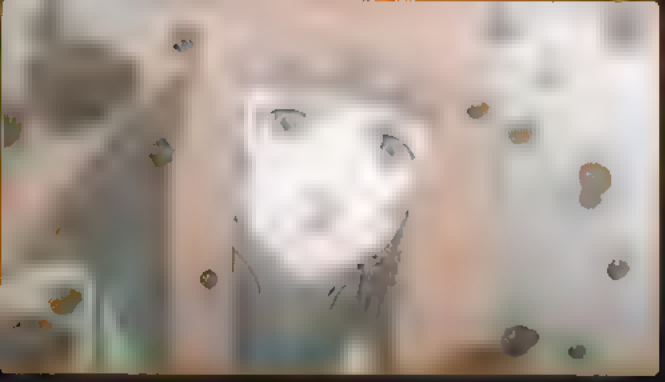


▲「ディンゴ！……黙れ。お前は好きだ」 一瞬、内面の葛藤をあらわに[illegible]
ンゴの存在は許し難いものであった。そして……

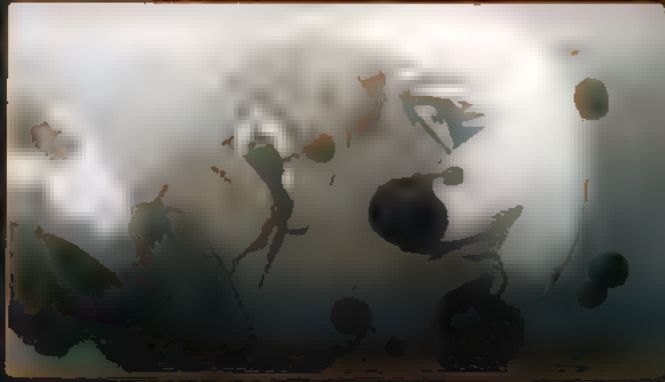


▲「部隊の仲間が何人死んだと思ってる！」 ディンゴの[illegible]ない部隊は、[illegible]
[illegible]
[illegible]したことによって……

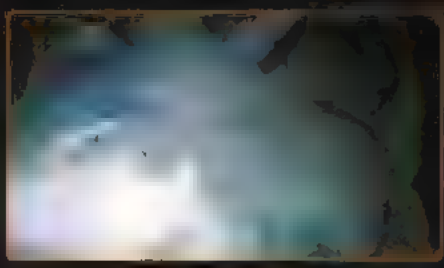
◀人[illegible]
つ時間が[illegible]
ンゴの[illegible]
度と聞く[illegible]
！男を[illegible]
い[illegible]
響くたび[illegible]
ンゴの[illegible]
おびただ[illegible]
の血もぶち[illegible]
き出し、[illegible]
った[illegible]
のガラス玉の[illegible]
うに無[illegible]
[illegible]内で濁[illegible]
らが生み出し[illegible]
そのガラス[illegible]
見つめる[illegible]
ディンゴ[illegible]
くり[illegible]
ていった……



▲「助かりたかったら協力して」 自分の計画に協力することを条件に、ケンはディンゴの命を助けるコトを決めた。[illegible]れない

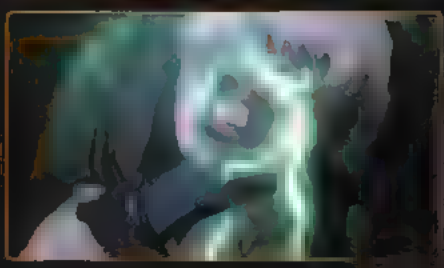


▲おびただしい[illegible]前に果たすべき使命が残されていた

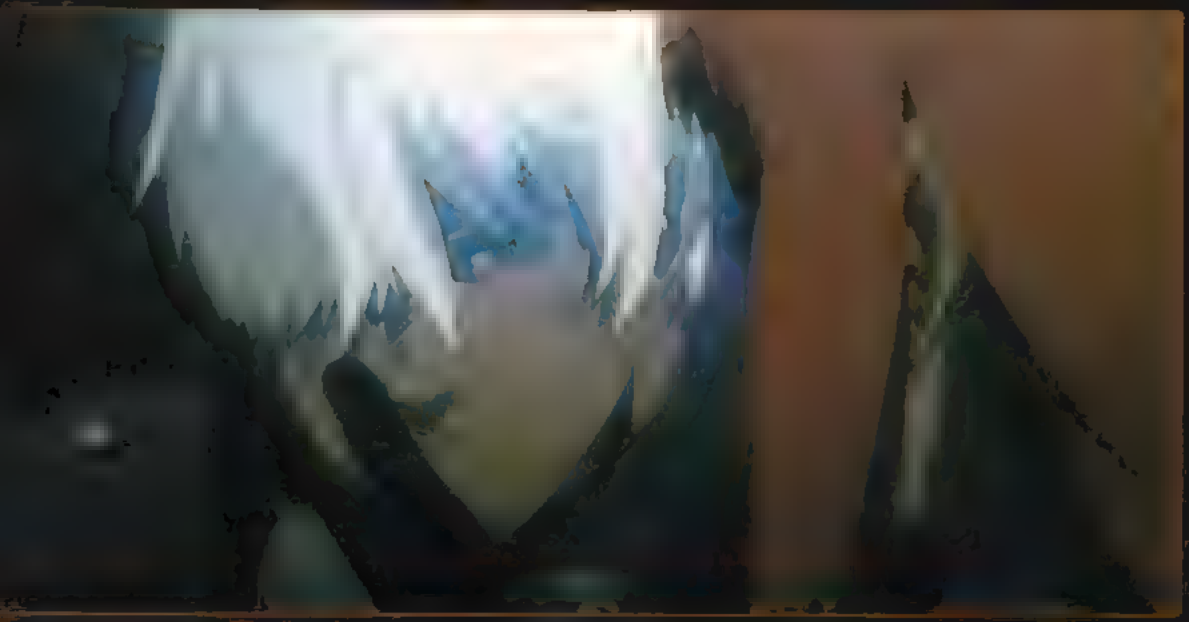


▲[illegible]から生還したディンゴだったが……

▲蘇生処置のようすを、厳しい表情で見守るケン。彼女にとってもこれは命がけの危険な賭なのだ



▲ディンゴをダイモス基地へと運んだケン[illegible]ンの命令と偽って蘇生処置を施す



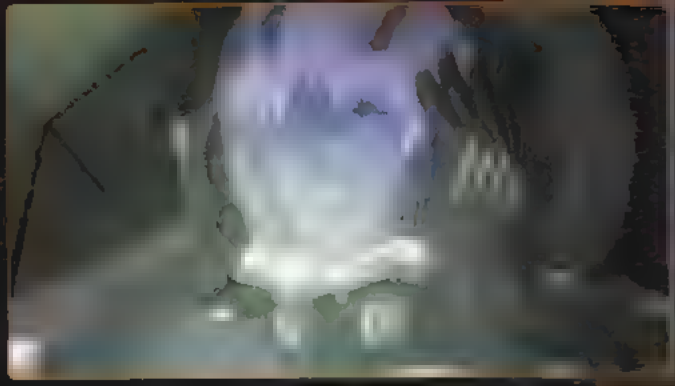
◀「[illegible]でもどった時、[illegible]イ[illegible]、[illegible]眠りたばかりの[illegible]ディンゴを、ジャ[illegible]はジョッ[illegible]クとかいう[illegible]込む命令をしてディンゴたちの[illegible]が知れたことを[illegible]考えると同時に、[illegible]こう呼げたのだった。『ジャッ[illegible]を残りたち[illegible]ルへのエネル[illegible]時間が稼ぐ[illegible]つまり[illegible]エプタ[illegible]号[illegible]の[illegible]

▲1分と経たないうちに[illegible]

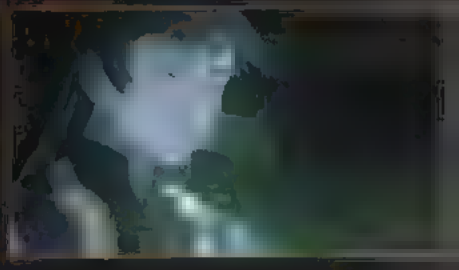
▲見つめるようなディンゴの視線を真正面から受

▲[illegible]ていることは本当なのか？ こちらの[illegible]

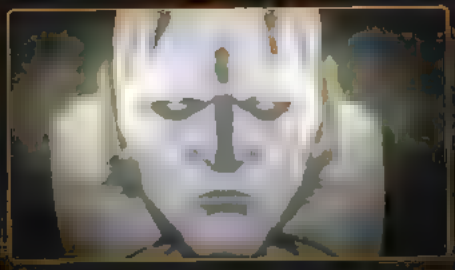
▲「ご苦労だっ……うわっ」　助かったと思ったとたんに態度のでかく[illegible]



▲「へ、ヘンリー・Gか？」「ああ、そうだ」　通台宇宙軍の[illegible]

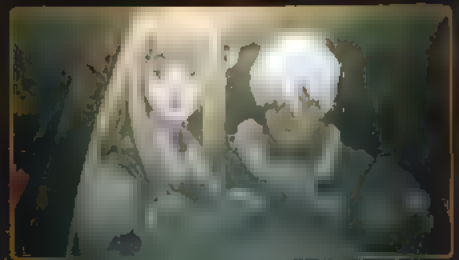


▲「おかげさまでな」　ロイドを納得させる[illegible]
ジゴは手錠なしで戦うことを決意する



[illegible]たか、ディンゴ。[illegible]は言っていないようだ[illegible]
を与えるかのようにロイドは立ちはだかる

[illegible]の対抗手段を与える条件として、ロイド
はインヘルトと対戦して勝つことを要求する

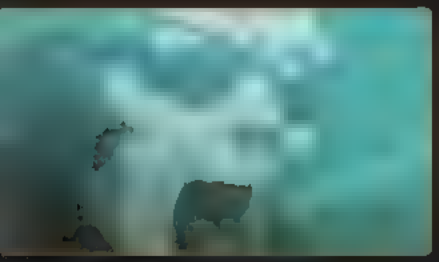


▲「これから来るプログラム[illegible]」 [illegible]
[illegible]もならない。「アヌビスが来たら逃げろ。今はまだ隠れんで！」

▲「プログラムもジェフティに渡してくれ。早く！」 [illegible]の状態では、[illegible]に合うのか？

▲「[illegible]」 [illegible]とは何か？ アヌビスの[illegible]

▲「アーマーン計画の目的は支配では[illegible]」 プログラムの[illegible]を奪ったケンに、[illegible]

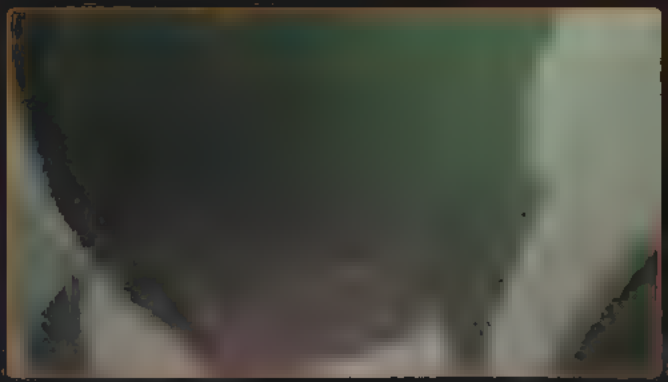


▲「[illegible]さん！」 勇ましく宣言するヴォルコヴォ中尉だが、祈りに備えるディンゴは止められない

▲「[illegible]1」 自らの故郷を破壊したザカ[illegible]ディンゴは激しい祈りをぶつける

▲「[illegible]カートの力[illegible]！」 [illegible]した巨大な力がジェフティに襲いかかる！

▲[illegible]のただならぬ雰囲気を察知し構えるケン。そんな彼女に襲い打ち[illegible]

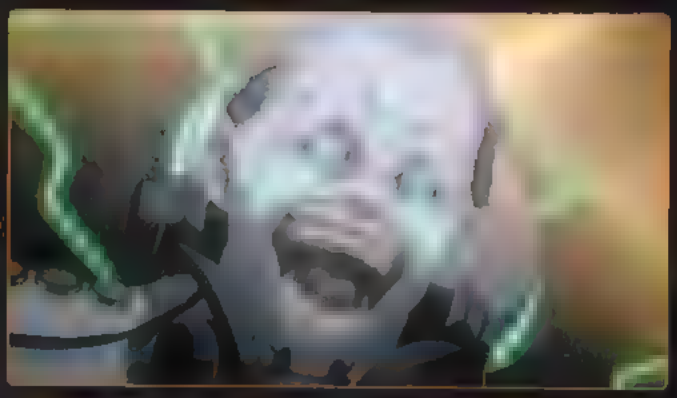


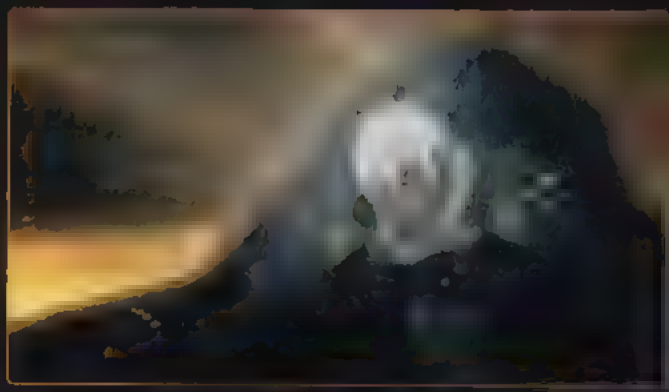
▲「ケン、どうしたこんな場所で」 瓦礫の下から出てきたケンを発見し、声をかけ[illegible]

も、彼にとってはほんの余興に過ぎない

「ディンゴ！　私よ！」　ディンゴとレオが戦慄し、たのは、ケンが乗せられた偽アスピスだったのだ！

ビックバイパーの猛攻にダメージを受けるアスピ
しかし、ディンゴにイヤな予感が走る。「まさか……」



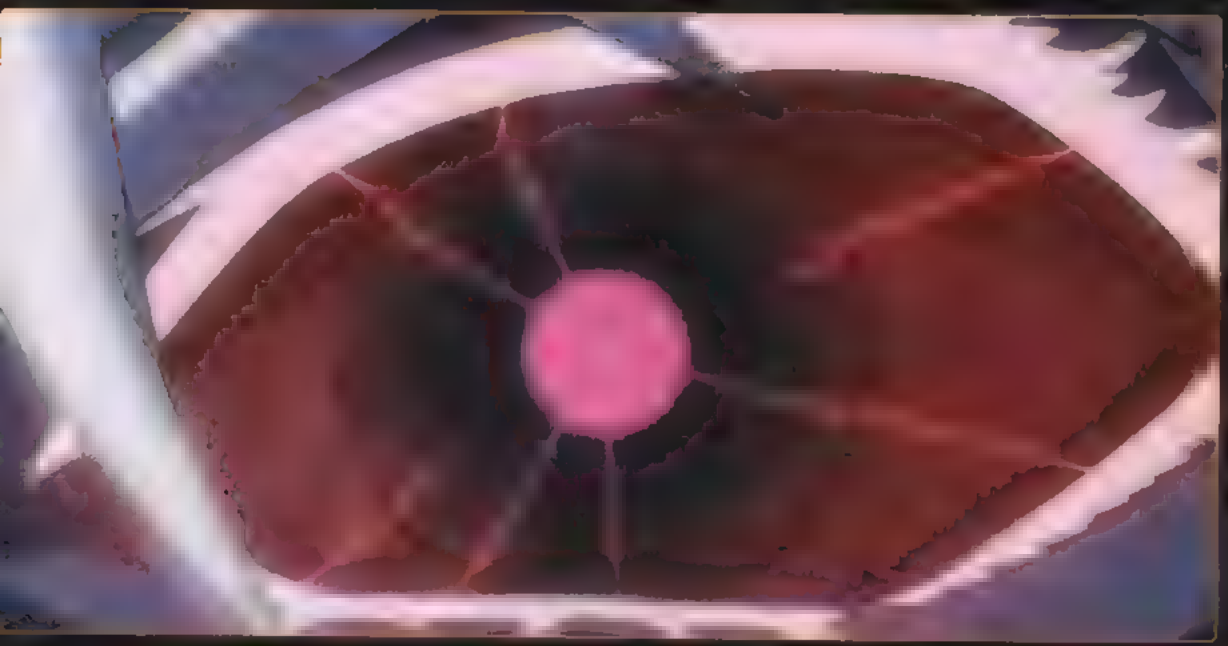


◀「ジャ[illegible]
どの[illegible]
が奪く文明の[illegible]
き先はまん[illegible]
破壊だよ。すべて
を終わら[illegible]
どの[illegible]
マンにとって、人
類文明の[illegible]
起こるべき[illegible]
で崩れた、プ[illegible]
ーンを一掃し
たアスピスは、[illegible]
唯一生き[illegible]
する[illegible]どの[illegible]ネ
ルギー[illegible]を[illegible]
始める。「見ろ、メ
タドロンの[illegible]
なる[illegible]
を[illegible]
[illegible]
[illegible]

■ディンゴとエイダと人間が生き延びるたったひとつの方法。それを与えたのは、皮肉にもアヌビスだった。

▲重圧波が作り出した暗黒の中で、ディンゴ[illegible]の光明を見いだす

▲激しいエネルギー放出にさらされ、徐々に崩れてゆくジェフティ。もはやなす術はないのか？

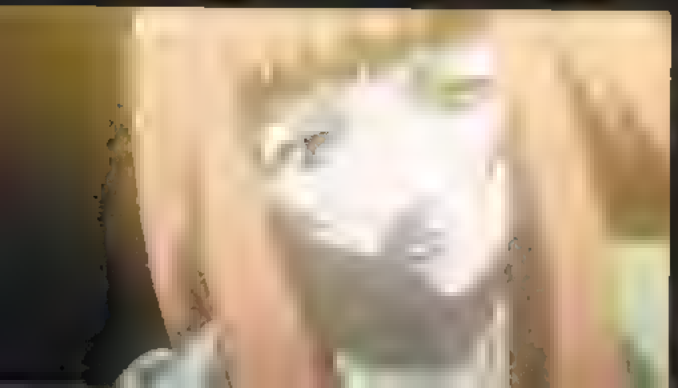


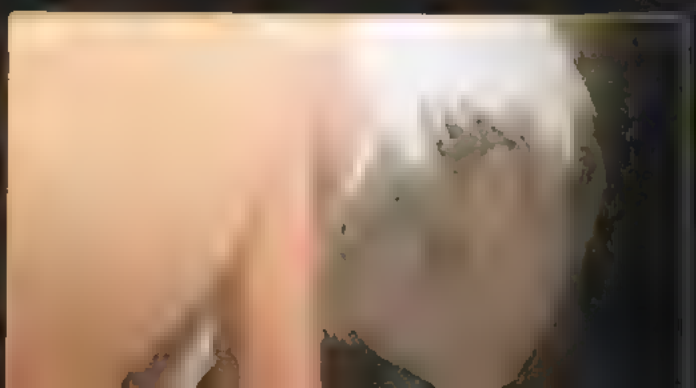
◀[illegible]ヌビスは[illegible]係。能力も等価[illegible]ら、優秀のエネルギー[illegible]ギー[illegible]アヌビスをジェフティのかわりに[illegible]備させれば、ディンゴも人間も、そしてエイダにも[illegible]き延びるチャンスが生まれる。全身全霊を込め、能力[illegible]都の中心にアヌビス[illegible]スを[illegible]ンゴ、そしてエイダは……。「[illegible]すべて[illegible]ために、作られた」

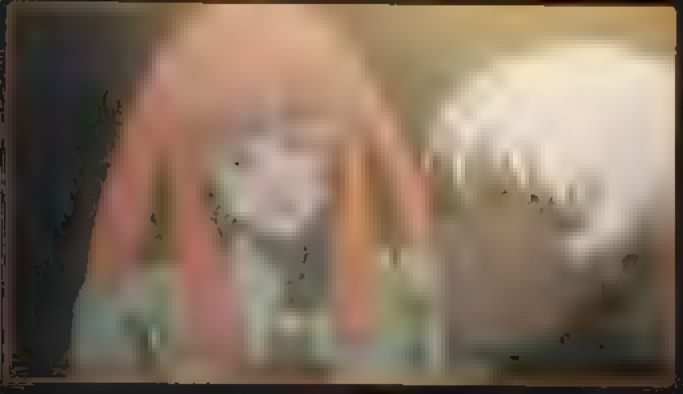
■「[illegible]を呼んで！」 意識を失った[illegible]て、絶叫するケンだったが……

■[illegible]ン。いまやディンゴはもっとも大切な仲間だった

■ディンゴも[illegible]し人[illegible]ンゴとエイダは無事なのか？

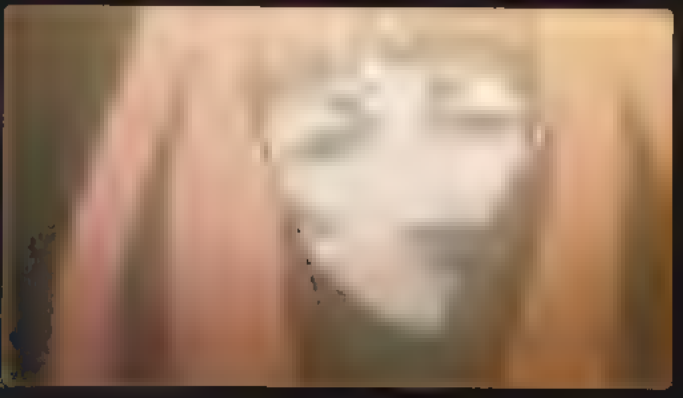






「重力は正しいことに使え。少なくとも、自分がそう信じられることに使」 ディンゴに教えたのは、ケンの父親リチャード・マリネリスだった。リチャードは死んだが、彼の魂はケンやディンゴ、「残された者」の中で生き続けている

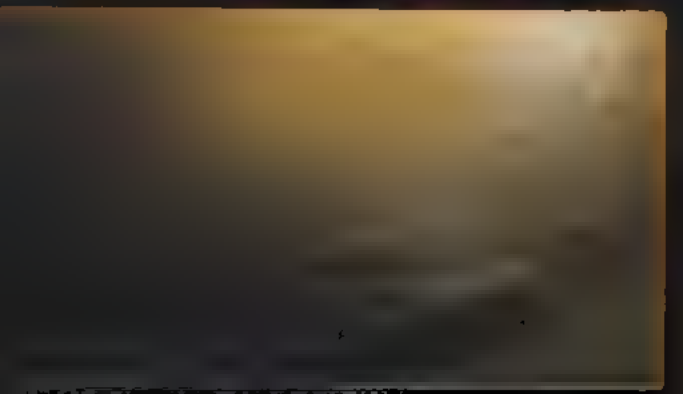
「[illegible]命令に従いたのでしょうか？」 プログラムであるエイダにとって、命令[illegible]自らの存在意義そのもの。[illegible]命令を取り消されたことを[illegible]エイダに、レオは優しく語りかける。「いいんだエイダ。それでいいんだ」

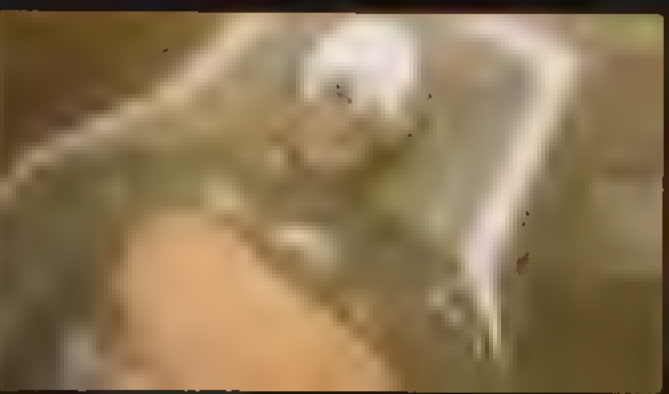


▲ディンゴをジェフティから離られない身体にしたのは、ケン以外の誰でもない。[illegible]はケンの意思であり、自分の身体を託してくれた、自分の[illegible]しているからこそ、ケンにとってその意味は切なさを伴うものとなった

「[illegible]マトモな身体にしてくれ」 ノウマンを倒し、アーマーン計画を打ち砕いた[illegible]ディンゴがジェフティ[illegible]ジェフティは少々大きすぎる

◀いまだ[illegible]ていた意識が[illegible]を取ったように、ディンゴにすがりついて[illegible]けるケン。その[illegible]にはどんな意味が込められているのか？ 制御[illegible]意識、[illegible]意識、それとも……。意識にならないほどまさまざまな思いが、[illegible]となって彼女の[illegible]からあふれ出る。父を亡くしてからの長年分の涙を絞り出すかのように、彼女はただひたすらに泣き続ける





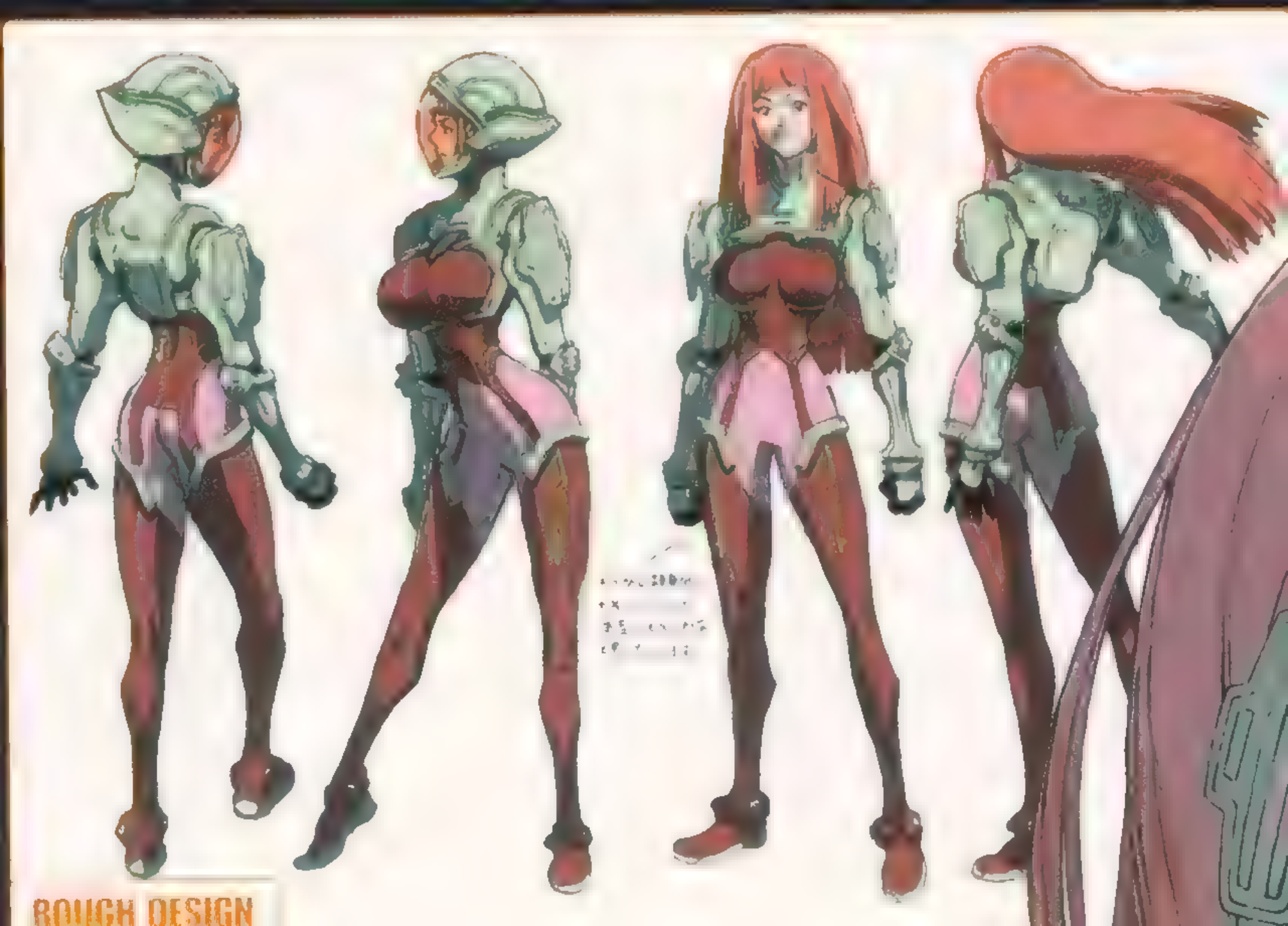
J E H U T Y

■シェ[illegible]ルイ[illegible]より、ジェラティの姿は、エジプト神話[illegible]なく[illegible]の「トト神」のエジプトをできる。アヌビス神が下敷きにあるオーピタルフレーム、アヌビス。そのモデーフはジャッカルに由り、黒犬の頭部をもったまで描かれる。それに対してトト神のシルエットジェラティはトキのイメージを強く継承している。上の[illegible]で、[illegible]に[illegible]ジェラティの[illegible]。[illegible]の[illegible]イメージから[illegible][illegible]り、かつ[illegible]の[illegible]「[illegible]」としての[illegible]のシルエットトト神のが、ひつは「[illegible]」という[illegible]は一[illegible]っている。それは[illegible]、[illegible]ジェラティの[illegible]を[illegible]ているといえよう。[illegible]月に[illegible]ものであり[illegible]トト[illegible]ジェラティのコンセプトの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



ROUGH DESIGN

人々などどうなってもいいと思っていたし、ディンゴにしてもそんな連中を仲間だとは思えないだろう。ジョー、レイは違うが、彼らとっては、ディンゴもその他の人々も、みんな「同じ穴のむじな」みたいな存在なのであり、火星だとか地球だとかそんなことはどうでもいいのだ。そもそもレオにしてみれば、人間とは、地球にいてもいなくても、生まれて育ち、そして死んでいくものだからというと、それがどれほどのことだというのだろうか？ ジョーとしては、どんなものであれ、やはり自分の居場所を求めたい。だが、彼がもっとも守りたいものは、アーマーマンとともに戦闘しようとしている、彼の相棒、ハンター・ウォーカーだけだ。ジョーにとって、ハンター・ウォーカーは、ただ単に、ジョーの命を救ってくれたというだけではなく、ジョーの人生そのものを変えてしまったものなのだ。ただ単に、ジョーの命を救ってくれたというだけではなく、ジョーの人生そのものを変えてしまったものなのだ。

■ "アメビジ"。この作品で最初の試みとして開発したのが「劇場版アニメのニュアンスで」ということだった。たとえば、同じタイトルのアニメであっても、TVと劇場版とでは、おのずと絵柄や色味が異なってくる。その指示の意味するところを、玖馬や岡村なりに解釈して実践したのがご覧のキャラクターである。前作と比較すると、ニュアンスの違いがよくわかるだろう。

開発秘話

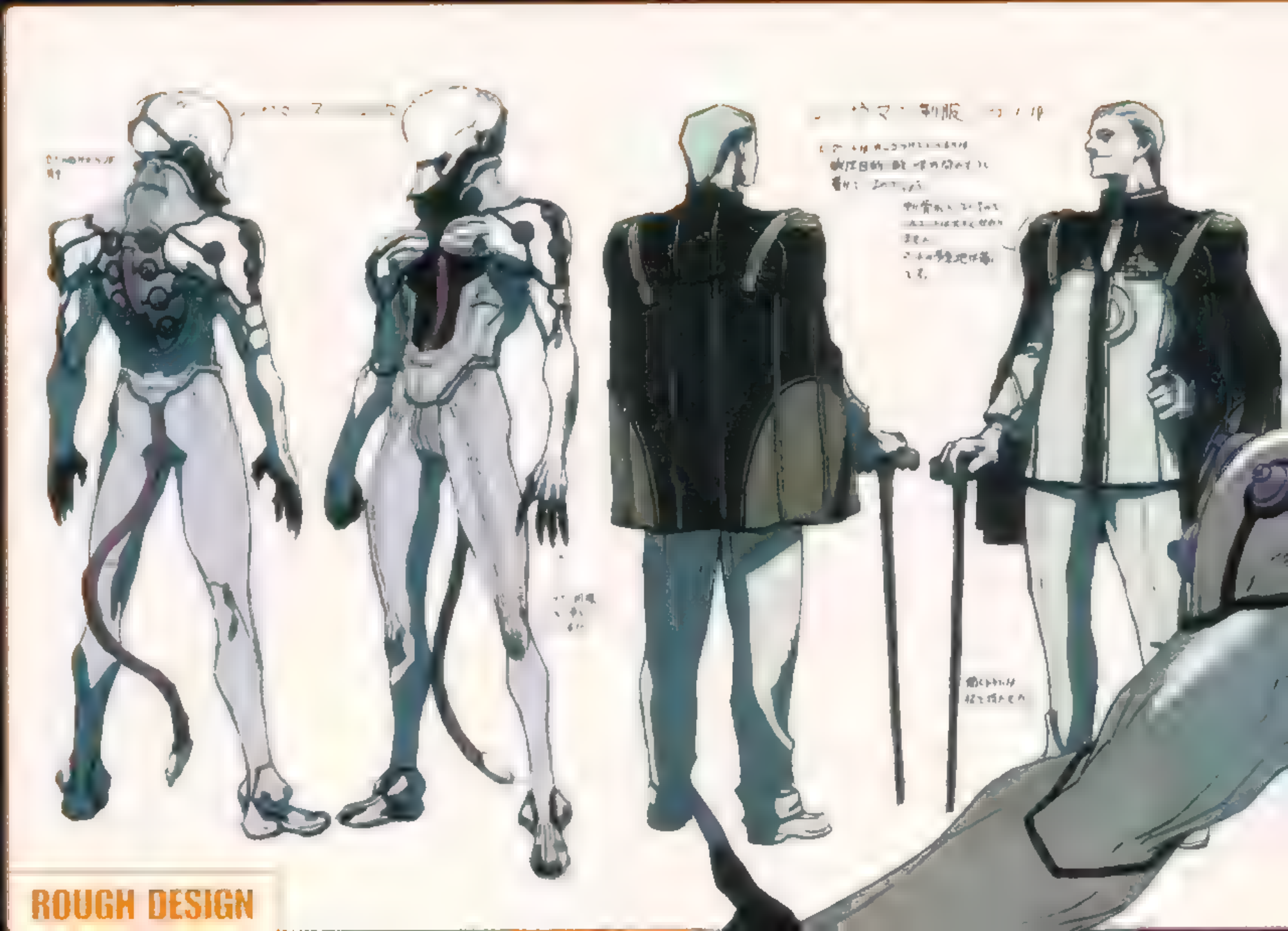
■E3出展用のレオのデザインはオフィシャルバージョンの初期と比べると、いくぶん太めな印象になっているようにも感じられる。ヘッドパーツが強調されているのは、ひとつの映像作品として作ろうというなんとなくイメージの表現を見せたいのだろう。誰よりも命を大切にしていたレオ。したのが、すべてを犠牲にするために生まれたAIであるというのも、[illegible]

■ ディンゴ。[illegible]アイデアからはアメコミ的雰囲気を感じさせるものが、[illegible]に対しては[illegible]ゲームの[illegible]。[illegible]中でも[illegible]とくに影響を受けたのは、『ストリートファイター』シリーズをはじめとするカプコン[illegible]。[illegible]とくに、そのデザインから[illegible]。[illegible]のなかでいちばんの[illegible]のもの。[illegible]

ROUGH DESIGN

里奥史提巴克

03
01
02


ROUGH DESIGN

[illegible]

[illegible]

いつもは無表情なノウマンだが、アヌビスに乗ったときだけは人が変わったように感情をあらわにする。細くつり上がった目を見開き、噛み付かんばかりに口を広げた凄惨な笑みは、不気味を通り越して恐怖すらも感じる。ディンゴのような力あるものと戦うとき、ノウマンはこうした「至高の表情」を見せるのであろう。

[illegible]

[illegible]

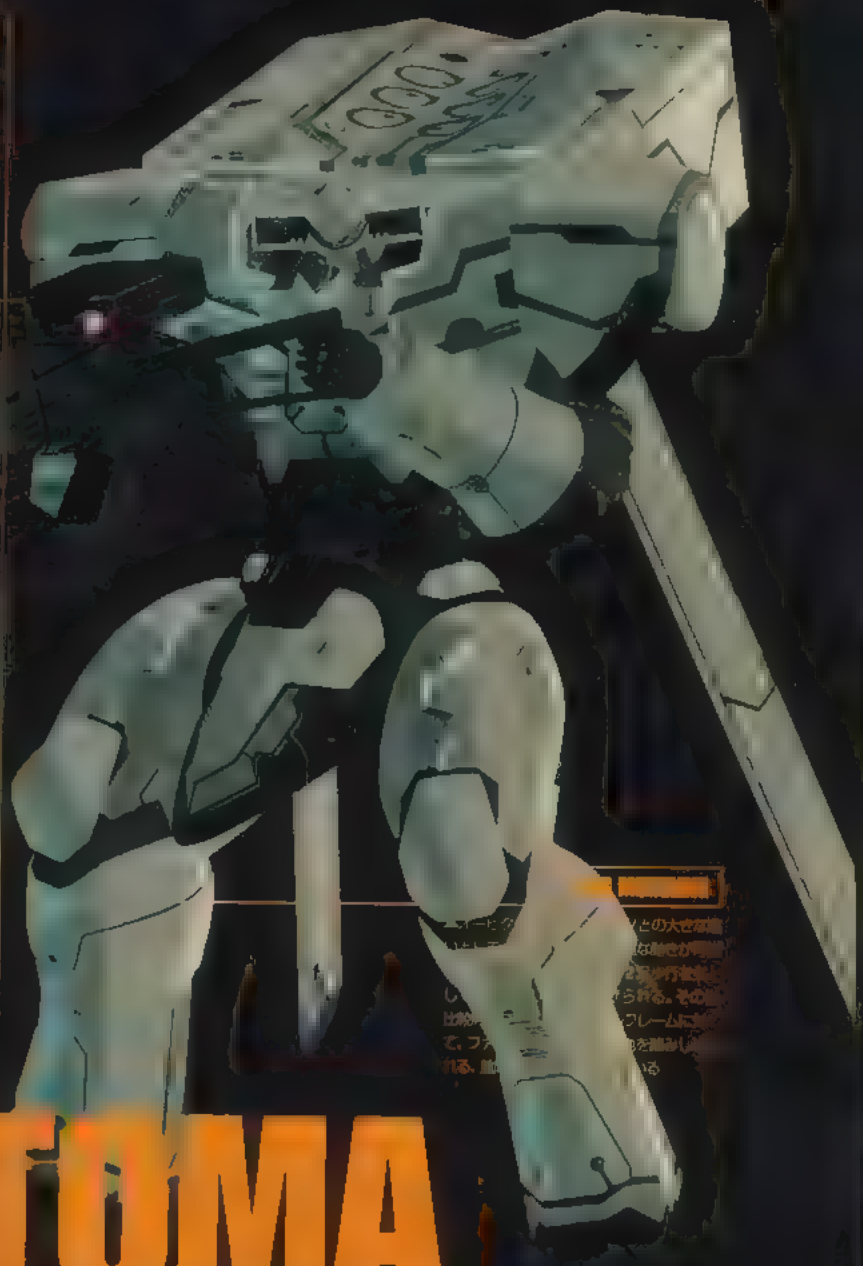
▲[illegible] LEV [illegible] LEVは、開発当初として考えた理由、外見からも、その[illegible]が伝える。フ[illegible]トやその周辺に[illegible]のパーツは、なんと「[illegible]」パワーカ[illegible]ターの[illegible]より、パラシュートスラスターに[illegible]

02 01

「[illegible]」世界の[illegible]「[illegible]」と月面人[illegible]

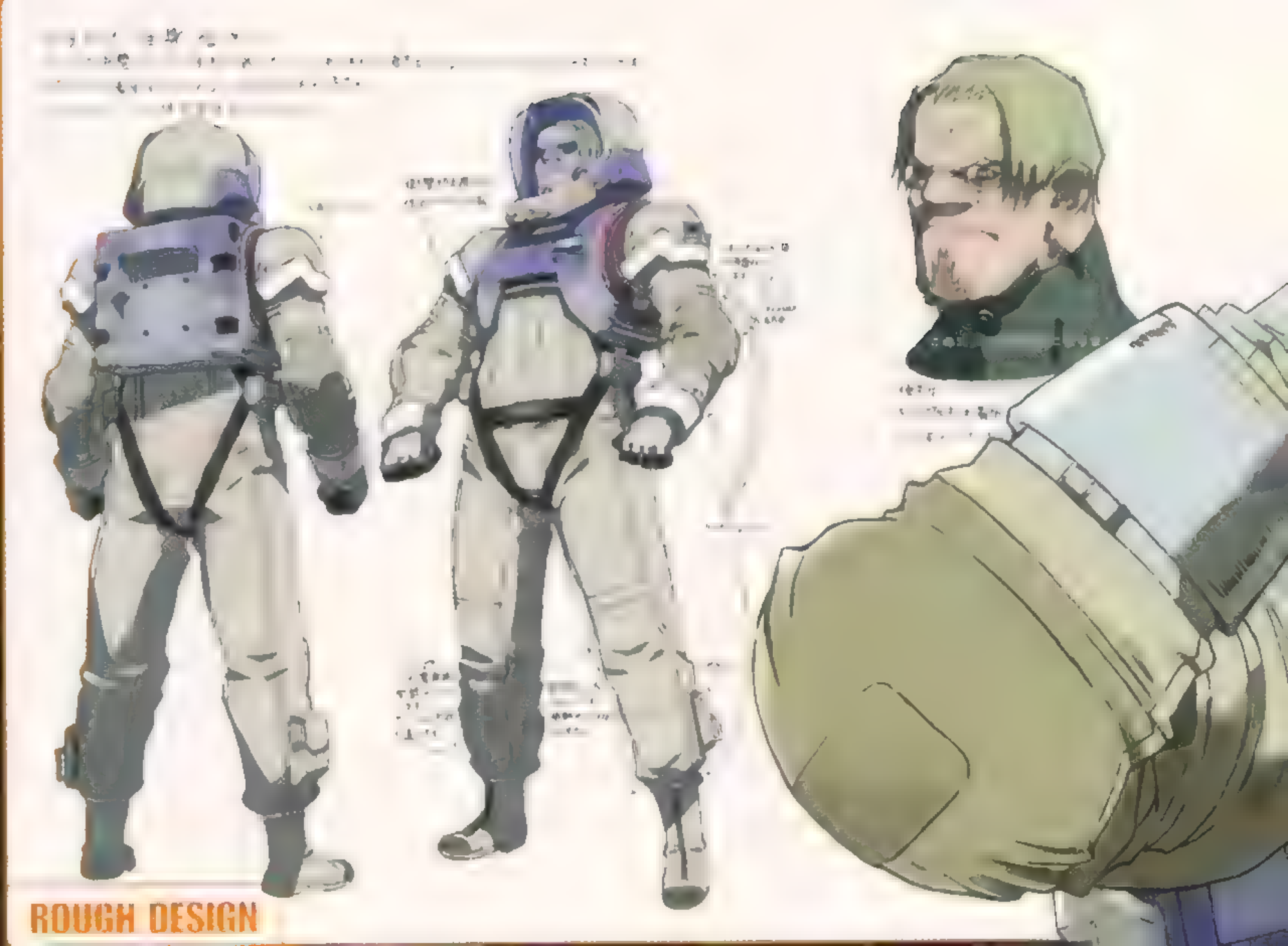
■[illegible]LEVは、「L[illegible]a[illegible]j[illegible]o[illegible]u[illegible]s Ex[illegible]t[illegible]a-Gr[illegible]」[illegible]「オービタルフレーム」[illegible]のシステム／[illegible]を[illegible]とするが、その[illegible]「[illegible]」[illegible]における[illegible]ロボットの[illegible]。[illegible]ステージ[illegible]ヒロインの[illegible]で[illegible]された[illegible]人[illegible]ロボットで[illegible]、[illegible]トロンとともに[illegible]人類の[illegible]のための[illegible]イプラとなっている。そうした「[illegible]」としての[illegible]が「ファントマ」である。[illegible]、火星の[illegible]に[illegible]、あるいは[illegible]の[illegible]、とはいえ[illegible]「人[illegible]」[illegible]トロンを[illegible]「オービ[illegible]」[illegible]くはじめて[illegible]。[illegible]べく開発されたLEVがビッグバイパーである。

■[illegible]外[illegible]においてファントマは主に、パフラムを[illegible]の敵として、一[illegible]に戦うことになる。[illegible]合[illegible]の[illegible]として[illegible]する。したがって、プレイヤーの[illegible]するジェフティと[illegible]する[illegible]が多くあるが、そこ[illegible]の[illegible]のあるファントマとジェフティ[illegible]のフォローも[illegible]つとめと思って[illegible]。



PHANTOMA

LEV・ファントマ



ROUGH DESIGN

V I C V I P E R

■本作が作られる前から和田氏には、「ビックバイパーを出したい」という思い
があったという。今回は[illegible]なってのお[illegible]し、まだ[illegible]コラボ
レート、サポートが作っていただいた[illegible]「[illegible]EV」としたオービ
ッ[illegible]フレームとは[illegible]に、いやそれ以上に[illegible]っていく。ビックバイパーの[illegible]
[illegible]、[illegible]のようなもののフォルムからも[illegible]が感じさせる
[illegible]ハ[illegible]に[illegible]っている[illegible]ーニングエ[illegible]
[illegible]されている。こういった[illegible]の[illegible]モーションやヴァン[illegible]
[illegible]している。もちろん、今回『ウルティマ』のビックバイパーとは[illegible]
[illegible]

ガチャ子

ヴァイオラAI全身 020525

○上半身ディテール参考

○手

○ヴァイオラAI表情 020526

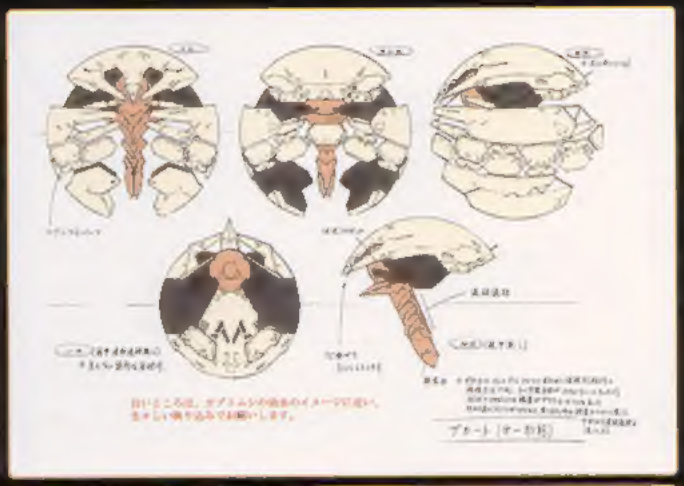
ROUGH DESIGN

▶本来は空から地上に向かって攻撃するために設計されたザカート。このように第一形態では、甲羅を丸めるような形で防御態勢をキープし続けるが、第二形態になると、[illegible]隠っていたパーツが外れ、リングの[illegible]りを取り囲み、回転する。と同時に[illegible]の光線膜のようなものを展開する。

規格外の防御力を誇る巨大な盾、ザカート

■大型オービタルフレーム「ザ[illegible]」[illegible]特殊な部類に入るオービタルフレー[illegible]い防御力を備えている。戦法も、エ[illegible]たりや、そのエネルギーシールドの[illegible]けなくするエネルギーフィールド、回[illegible]など、全て「敵を接近させない」、「ダメー[illegible]防御の姿勢から出発している。「防御は最大の[illegible]機体だ。戦術面においての役割は、その高い防[illegible]強引に前線を拡大したり、戦闘区域を制圧すること[illegible]まり、ザカートは前作の「テンペスト」と同じく、拠点制圧[illegible]オービタルフレームなのだ。だが、テンペストは高い攻撃力にモノを言わせてグイグイ攻めるタイプだが、ザカートはじっと防御して、相手が消耗してきた所を叩くタイプ。実際に戦場で出会ったとしたら、精神的疲労度は間違いなく後者の方が高いだろう。文字通り、ジェフティの前に立ちはだかる「盾」となって現れるザカート。間違いなく強敵だ。

■この機体は、装甲が厚く球状の第一形態と、機動力をアップさせた第二形態という二つの姿を持っている。第一形態時に本体へダメージを与えることは難しい。まずは装甲を剥がすことが先決。第二形態になり、防御力が落ちた所が勝負だ。体当たりをかわして本体へ攻撃しよう。



▲中心部に見え隠れの明は、これがコクピットだ。エネルギーラインは、このコクピットから放射状に、装甲の表面を走る。このザカートを操るには、実に4人のフレームランナーを必要とする。もはやオービタルフレームではなく、移動要塞と言っていいだろう。

ZAKAT

オービタルフレーム・ザカート

ROUGH DESIGN